

科目名： 教育原理（講義2単位）	担当教員名： 武内 裕明	使用テキスト：出版社名・テキスト名 建帛社：改訂 子どもの教育原理
<b>授業の到達目標及びテーマ：</b> 日本の教育の制度や体系を理解し、どのように社会と教育とが結びついているのかを理解できる 世界的視野で教育や子どもに関する思想や歴史の展望をもち、現在の学校教育について考える基礎を培う		
<b>授業の概要：</b> 学校教育を中心として教育について理論的・制度的・歴史的に展望し、子ども観や子どもの認知に関する研究、カリキュラムや評価等教育観の根幹となる内容を学習することで、教育に関する理念や歴史、制度についての基本的な理解を深める。		
回	項 目	内 容
1	オリエンテーション 教育と学習	冒頭で講義の概要を説明する。また、これまでの経験やテキストから、教育についての基礎的な考え方を整理する。
2	現代の社会と教育	松下佳代による<新しい能力>概念の整理を元に、現代の社会において、なぜ、何が教育の課題となっているのかを概観する。
3	家庭教育	家庭教育の機能や、政策、保育施設に期待される機能に関しての基本的な理解を得る。
4	学校教育（1）	個人にとっての教育の意味と社会にとっての教育の意味を提示した上で、学校教育が憲法や法律に依拠した目的的な活動であることを示す。また、教育行政に関する理念と仕組みを概観する。
5	学校教育（2）	幼稚園の法制度を中心に、幼稚園教育の法的基盤を確認するとともに、認定こども園や、幼小連携、保育者の専門性向上等、現在の保育の課題に対応した改革について概観する。
6	社会教育と生涯学習	社会教育と生涯学習の基本的な概念とその類似点、相違点を確認することで、社会教育や生涯学習の意義と役割を理解する。
7	カリキュラム	カリキュラムの概念や諸類型、一斉教授の課題を乗り越えようとした初期の実践、カリキュラム開発などを視点として、教師と子どもの教育経験・学習経験の総体としてのカリキュラムという発想を獲得する。
8	教育評価	近年のコンピテンシー育成の動向をふまえて、教育評価の目的や意義、評価に関する基本的観点を概観する。
9	子ども観と教育観の変遷	西洋での子ども観や教育観の変遷を扱うことで、子どもを教育するという今日では自明の考えがどのように展開され、何が重視されるようになってきたのかを学習する。
10	子どもの教育の歴史と現在	歴史的な教育機関を扱うことで、今日につながる学校教育がどのように誕生し、現在においてどのように多様であるのかを学習することで、今日の日本の学校教育を相対化して思考するための基礎を培う。
11	日本の子どもの教育（1）	日本における古代から明治期までの子どもの教育について概観することで、世界の公教育の成立や発展と関連づけながら、今日の教育の原型がどのようにして成立してきたのかを理解する。
12	日本の子どもの教育（2）	日本の大正期以降の子どもの教育を概観することで、教育は子ども観や教育観の影響を世界的に受けるとともに、社会や政治的な影響下にもある営みであることを自覚的に理解する。
13	幼児の有能性	乳幼児に高度な知識や思考が可能であることや、そのような有能さの限界を適切に理解することで、総合的な学びのなかで幼児の学習の特性を活用するための基礎を築く。
14	教育のマネジメント	教育組織としてのビジョンの創出、事業やカリキュラムの策定、評価、危機管理等、教育組織の一員として教育経営学の知見の基礎を学習する。
15	教育専門職としての発達	教育専門職が地域社会に情報発信すべきという提言を起点に、地域との連携及び幼児や地域の実態を踏まえた教育課程及び指導計画の検討が必須であることを学ぶ。また、教育の目的や意義、教職に関する専門的知見を学ぶ重要性を確認し、これまでの学びを総合する。
<b>参考書・参考資料等：</b> 松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、2010、文部科学省『幼稚園教育要領解説』2018、稲垣佳世子、波多野誼余夫『人はいかに学ぶか』中央公論新社、1989、東洋『子どもの能力と教育評価【第2版】』東京大学出版会、2001		
<b>学生に対する評価方法：</b> テスト（60%）、平常評価（40%）によって総合的に評価する。		